



# 造影 MRI 検査について

様用

検査日時：                    月    日（ ）                    時    分

- スムーズに行くために、**検査時間の 45 分前迄に 1 階総合案内の紹介窓口**へお越し下さい。  
※**検査前に当院にて血液検査を予定されている方は 60 分前迄**にお越し下さい。  
(検査時間を 30 分以上過ぎると検査ができなくなる場合があります。)
- 当日都合の悪い場合は必ず前もって下記連絡先にご連絡下さい。
- 精密機器を使用しておりますので、予期せぬトラブルが発生する場合があります。  
その場合予約日時を変更させて頂くことがありますのでご了承下さい。
- 救急患者の対応を優先する場合があります。  
それにより予約時間が多少ずれることがありますのでご了承下さい。
- 健康保険証、医療受給者証、お薬手帳などをご持参下さい。

## ご予約・お問い合わせについての連絡先

中部国際医療センター 放射線技術部 直通：0574-66-1328（内線 4300）

※時間外（17 時以降）は…

病院代表：0574-66-1100 より 当直放射線技師へお繋ぎします。

## 造影 MRI 検査を受けられる方へ

以下をよく読まれた上で問診票をご記入ください

### 造影 MRI 検査とは

- ◆ 強い磁気と電磁波を用いて撮像する検査です。トンネル型の機械の中に入って検査します。途中で腕の血管から造影剤を入れ同じように再び撮影をします。撮像中は電磁波の発生により工事現場のような大きな音がしますので、耳栓をして頂きます。検査時間は約 30 分で痛みはありません。また、放射線は使用しないので放射線被曝はありません。
- ◆ 体内に電子装置や特殊な金属類のある方は、検査ができません。安全に検査を行うため、問診票の質問に正確にお答え下さい。ペースメーカーを留置されている方は予約時に主治医にご相談下さい。（種類によっては検査を受けていただける場合があります）
- ◆ 金属類について、ご不安・ご不明な点がございましたら予約時に主治医にご相談下さい。

### 検査当日のお食事やお薬

- ◆ 腹部（肝臓・膵臓・胆のうなど）の検査の方は、検査の 4 時間前より絶食して下さい。なお、前夜からの絶食は必要ありません。
- ◆ 腹部以外の検査の方は、お食事の制限はありません。
- ◆ 常用薬はいつも通り服用して下さい。
- ◆ 糖尿病の方は、当日のお食事・お薬については主治医にご相談下さい。
- ◆ 貼付薬は、含まれる成分によっては発熱し皮膚に損傷をきたす可能性があります。検査前に外して撮像させて頂きますが、常用しているものに関しては主治医にご相談下さい。

### 検査に入る前の準備と注意点

- ◆ 次のような金属類は、更衣室のロッカーにしまして下さい。

○時計、携帯電話、補聴器、磁気カード（駐車券、銀行カード、クレジットカードなど）

※壊れたり使用できなくなったりする場合があります

○ヘアピン、アクセサリー（ネックレス、ピアス、指輪など）

○その他金属を含むもの（取り外し可能な入れ歯、エレキバン、使い捨てカイロ、めがね、かつら、金属のついた下着、小銭、安全ピン、鍵、ライターなど）

- ◆ 義肢（義足、義手）、コルセット、義眼などは、検査直前に取り外していただきます。

## その他の注意点

- ◆ 以下のものは含まれる成分によっては発熱し、眼球や皮膚に損傷をきたす恐れがあります。

○コンタクトレンズ ○アイメイク（アイシャドー、マスカラなど） ○刺青（イレズミ・タトゥー：背中、胸、腕、まゆげ、まぶたなど）	} 検査当日はつけずにご来院下さい
---	-------------------

- ◆ **検査中、熱感などの異常を感じたらブザーでお知らせ下さい。**
- ◆ **磁石を利用した義歯（磁気インプラント）は、MRI検査後に磁力が低下する場合があります。** 外せるタイプのものについては、検査前に外して撮像していただきます。

## 検査中の緊急中止について

- ◆ 検査中はブザーボタンを手に持って頂きます。気分が悪くなったり、不安になった時はブザーボタンを押してスタッフにお知らせ下さい。

## 妊娠中もしくは妊娠の可能性のある方

- ◆ 妊娠初期（3 か月頃まで）はMRI検査を受けないことが望ましいので、検査予約時に主治医にご相談下さい。

## 医学的利用について

- ◆ MRI検査で得られた画像やそれに伴う一連の検査によって得られた結果（血液検査など）は、検査を受けた本人が特定できないように配慮したうえで、学術・研究等に利用させていただく場合があります。

## 費用について

- ◆ 読影医による問診を含め、健康保険の3割負担の方で約1万円から1万5千円です。

## ガドリニウム造影剤についての説明

今回のMRI検査では、造影剤という薬剤を注射して撮像する予定です。

造影剤とは病気の有無や病気の性質、範囲などを画像上でより正確に評価するために用いられるものです。そのため、病気がある場合には最良の治療方針を立てるために非常に有効です。

### 副作用について

造影剤を使用すると、まれに副作用がおこることがあります。

ぜんそくやアレルギー体質、造影剤副作用歴のある方は、この確率は高くなります。

#### ① 軽い副作用

吐き気、かゆみ、発疹、咳、くしゃみ、咽喉頭（のど）違和感、動悸、頭痛などです。これらは治療を要さないか、1~2回の投薬や注射で回復するものです。このような副作用が起こる確率は約 100 人につき 1~2 人、約 1~2%です。

#### ② 重い副作用

呼吸困難、ショック、意識障害、血圧低下、腎不全などです。この場合入院治療が必要になり、場合によっては後遺症が残る可能性があります。このような副作用の起こる確率は、約 1 万人につき 5 人以下（約 0.05%以下）です。病状・体質によっては約 100 万人に 1 人の割合（0.0001%）で死亡する場合があります。

#### ③ 造影剤を注入する際、まれに血管外に造影剤が漏れて注射部位が腫れ、痛みを生じる場合があります。基本的には時間が経てば吸収されますが、必ず担当者にお知らせ下さい。

#### ④ 副作用が起こる場合、検査中に起こることが多いので、造影剤注入時や注入後に何か異常を感じられましたらためらわずにすぐにお知らせ下さい。（検査中はブザーボタンをお持ち頂きますので、異常時は鳴らして下さい。）

## 女性の方へ

- ◆ 授乳中の方は、この造影剤注射後 48 時間は授乳を中止する必要があります。
- ◆ 妊娠中の方、妊娠の可能性のある方は、主治医にご相談下さい。

## 検査予約時の注意点

- ◆ 近年、腎機能が著しく低下している方（透析を行っている方、腎不全の方）にガドリニウム造影剤を使用し、腎性全身性線維症（造影剤投与、数日から数ヶ月後に、皮膚の発赤、発疹、腫脹、疼痛、硬化などで発症し、その後皮膚の硬化や色素沈着、関節拘縮などを生じる病気）を発症した報告があります。  
腎臓病のある方や、透析を受けている方は、予約の時に必ず主治医にお申し出下さい。  
また、腎臓病の有無、透析を受けているかどうかについては問診票にもれないよう記入して下さい。
- ◆ 今までに、MRI（ガドリニウム系）造影剤で副作用がおこった方は、**原則としてこの造影剤は使用できません。**もし造影剤副作用歴があれば、造影剤の種類を確認する必要があります。検査予約の段階で必ず主治医にお知らせ下さい。
- ◆ ぜんそくの方も副作用のリスクが高まるので、予約時に必ず主治医にお申し出下さい。

## 検査後の注意点

- ◆ この造影剤は主に尿から排出されます。治療上の水分摂取制限のない方は、検査後しっかり水分をお取り下さい。
- ◆ 造影剤の副作用が万が一起る場合、通常造影剤投与直後から数分後（検査中、検査直後）に起こりますが、数時間から数日後に起こる場合もあります。帰宅後、数日の間に、何か変わったこと（発疹、むくみ、かゆみなど）が起こりましたら、すぐに来院されるか、病院（表紙の連絡先）にご連絡下さい。入院中の方は病棟主治医・看護師にお知らせ下さい。

## 検査の内容や造影の使用、同意について

- ◆ 検査当日にご不安・ご不明な点がありましたら、主治医もしくはスタッフにご相談下さい。
- ◆ 検査日までに、検査や造影剤を使用することに「同意したけれど撤回したい」「質問がある」という場合は検査依頼元の医師に相談して下さい。
- ◆ 検査当日になって検査や造影剤を使用することに「同意したけれど撤回したい」「質問がある」という場合は院内の担当スタッフにお申し出下さい。